


ふくおかAL通信

～県立学校の教室から～

第2号
(H29.9)

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

 福岡県立京都高等学校

SGHとしての取組の成果を各教科に広げる

京都高等学校はSGH（スーパーグローバルハイスクール）の研究指定を受けた平成27年度から、学校の将来ビジョンを「地域のみならず世界を舞台に活躍する将来のグローバル・リーダーを育成する」と定め、社会の変化に対応しつつ学校の特色化を図っています。28年度に創立100周年を迎え、新たな学校文化・価値の創造に挑戦する京都高等学校の取組を紹介します。

1 目指す生徒像及び教育重点目標

- (1) 志をもって意欲的に学ぶ生徒【主体性・チャレンジ精神】
- (2) 自律心と思いやりの心をもつ生徒【倫理観、責任感、協調性、柔軟性】
- (3) 困難に立ち向かうことができる逞しい生徒【課題発見・解決能力、コミュニケーション能力】

2 田中浩子校長先生の話

- SGHの指定を受けてから、全職員の共通理解の下で取組が軌道に乗るまでは苦労も多かったが、会議や研修会の時間を確保して職員のコミュニケーションを活性化することで、学校のビジョンが共有化され、現在は全員で前向きに取り組むことができている。
- SGH指定による本校の新たな挑戦が生徒の変容に良い影響を与えており、そのことが教員のモチベーションをさらに上げる、という好循環が生まれている。
- 授業改善のためには全職員が生徒の実態と世の中の動きを踏まえて意識改革をすることが大切。教員には、基礎的・基本的な知識の習得は従来どおり大切にしながら、必要に応じて様々な活動の手法やICTを取り入れることができる指導力を身に付けてほしい。
- SGHの研究指定(平成27～31年度)終了後も核となる事業は継続し、学校のさらなる活性化をめざしていく。

3 SGHとしての取組

研究開発テーマとして「国内外の農業問題に挑むグローバル・リーダーの育成」を掲げ、グローバル・リーダーとして必要な資質・能力（社会問題に対する関心、論理的思考力、コミュニケーション能力、ICT活用能力、課題発見・解決力、文化・歴史に対する理解、多様性の理解、協働的に取り組む力、リーダーシップ）の育成をめざしています。「総合的な学習の時間」では生徒が地域・大学・企業・官公庁の協力を受けながら課題研究に取り組んでいます。

【具体的な取組（主なもの）】

- 1、2年次：フィールドワーク、インタビュー、レポート作成、海外研修等
京都大学のスタッフによる遠隔講義やレポート指導（TV会議システムの活用）
- 3年次：研究成果の地域への発信（「草の根グローバル活動」）

4 「課題研究」におけるルーブリック（評価基準表）の活用

課題研究においては年間の目標を明確に示すルーブリックを作成し、節目節目で生徒の自己評価や相互評価、教員による評価に活用しています。活用の成果として「教員と生徒が目標を共有することができた」「授業のPDCAサイクルをうまく回せるようになった」「生徒の自己評価力を高めることができた」「教員が生徒の実態をより深く把握し、多様な観点から生徒を見ることができるようになった」等が挙げられています。

5 各教科におけるアクティブ・ラーニング型授業

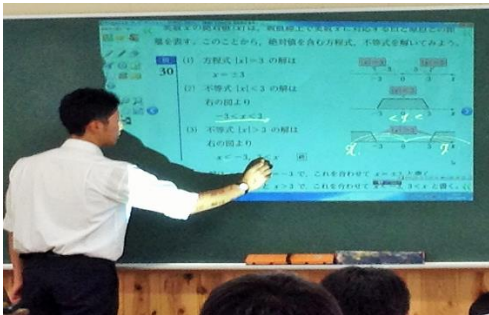
(1) 導入とその成果

SGHとしての取組が始まってから、各教科の授業においてもアクティブ・ラーニングの視点による授業改善が広まっています。講義中心の授業においても、生徒の「思考の言語化」や「学びの可視化」を促すための発問・ワークシートの工夫がなされるようになりました。ルーブリックを活用したパフォーマンス評価やポートフォリオ評価の導入も進んでいます。

アンケートでは7割以上の教員が「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業によって生徒に前向きな変化が見られた」と回答しており、具体的な変化として「積極性が高まった」「行事などでリーダーシップをとる生徒が増えた」等を挙げています。また、小論文や面接を課す入試に臆せずチャレンジする生徒が増え、近年の国公立大学合格者の内訳を見ると、推薦・AO入試による合格者の割合が上昇しています。

(2) ICTの積極的活用等

ICTを活用して板書や説明の時間を短縮することで、言語活動の時間を確保しつつ授業進度が維持されています。また、視覚に訴えることで生徒の関心や理解度を高めたり、教材を教員間で共有したりできる、という点でもICT活用の価値を感じている教員が増えています。



ICTを活用した数学の授業



新聞を活用した「現代社会」の授業



「グローバル人材として求められる資質」
(教室の黒板上方のスペースに掲示されています)

6 「広める」「つなぐ」取組

生徒が先輩の姿から多くを学べるように、課題研究等の学習の過程や成果を2、3年生が1年生に引き継ぐ場の設定が計画されています。教員間でも学年間で指導の成果や課題についての引継ぎが十分になされています。

今年度の授業見学週間（共通テーマ：「主体的・対話的で深い学びの実現」）には、小・中学校の先生方にも授業が公開されます。